

シリーズ名	オペラ・歌曲・演奏・解釈・指導
所属	音楽学部 音楽学科
氏名	泉 貴子
<p>【概要】</p> <p>イタリアオペラ作品、またイタリアロマン派～近代歌曲を中心に研究している。これまでにオペラにおいては古典派時代～ヴェリズモ時代の作品の公演に出演している。歌曲においては主に文豪による文学作品によるテキストと、音楽との融合について考察を深め、講義でテーマとして扱うことも多い。また2023年からは自身の舞台経験を活かして、“演じながら歌唱し、表現をする”ことを演習形式で学ぶ「演唱法」の授業も担当する。これまでに《Don Giovanni》《Così fan tutte》《Aida》《Luisa Miller》《Adriana Lecouvreur》《Don Carlo》《Iris》等のオペラに出し、G.Puccini、I.Pizzetti、F.Liszt、O.Respighi、G.Verdi等の作品を取り上げたりサイトを開催した。2016年にはイタリア、ピサのヴェルディ劇場にて《三部作》に出演した。</p> <p>ソリストとしてはオルフの「カルミナ・ブラーナ」、ベートーヴェンの交響曲第9番、フォーレのレクイエム、マーラーの交響曲第8番「千人の交響曲」等に出演した。2008年には相愛大学研究論集第24巻に原著論文「G.Verdi《Luisa Miller》における調性の配置と音楽的表現との関係」[査読付]、2021年には相愛大学研究論集第37巻に原著論文「文学作品とオペラ、芸術歌曲の関係についての一考察 ―演じることに求められるもの―」[査読付]が掲載された。</p>	
キーワード	イタリアオペラ、イタリア歌曲